

精神科作業療法に従事する作業療法士のコンピテンシー



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 作業療法学科 講師

原口 晋一 Haraguchi Shinichi

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 精神科作業療法・精神障害・コンピテンシー



研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

本研究は、精神科領域で作業療法士に求められるコンピテンシーを整理・構造化し、概念モデルおよび自己評価尺度として提示することを目指す。

作業療法士は、対象者の日常生活や社会生活の能力向上、就労支援・復職支援を実施していく職種であるが、実態としては就労や就学支援、社会参加促進といった活動への介入頻度は低い。その背景としては、作業療法士自身の専門性や役割の理解不足、精神科医療の中での作業療法の理解不足、診療報酬制度の構造上、集団による作業療法が中心となることなど、複合的要因が指摘されている。

コンピテンシーとは、行動によって見極められる職務を効果的に遂行するために、必要な行動・思考・判断など総合的な能力の概念を指す。精神科作業療法に従事する作業療法士においても、自らの専門性を発揮し、地域や臨床現場でより効果的な実践を展開するためには、必要とされる知識・技能・態度を体系化し、実践基準を示す「コンピテンシー」の明確化が不可欠である。作業療法士のコンピテンシーについては、世界作業療法士連盟において、各国で独自の作業療法士のコンピテンシーを開発することを推奨している。

本研究がもたらす価値は、精神科作業療法の「専門性の中身」と「到達すべき水準」を見える形にし、関係者間で共有できるようにする点にある。これにより、作業療法士の育成を体系的に進める土台ができる。また、研修設計や到達度の確認、育成計画の立案にも応用でき、組織的な人材育成と質保証の取り組みを支える。さらに、他職種連携や地域支援の場面で作業療法の役割を説明しやすくなり、協働の質向上にもつながる。

これらを通して、精神科作業療法の専門性の可視化と人材育成の体系化を進め、当事者の生活とリカバリーを支える支援の質向上に貢献することを目指す。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究で作成する精神科作業療法士のコンピテンシーモデルと自己評価尺度は、臨床現場での自己点検・スーパービジョン・OJT の共通言語として活用できます。さらに、養成教育や臨床実習における到達目標の明確化と、育成・評価の体系化に役立てることができます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】

- ・「臨床実習施設訪問における教員の役割:実習施設訪問記録の分析から-The role of teachers in visiting clinical training facilities :Based on analysis of visitor records in practical facilities」
- ・作業療法士の人事考課に関する実態と課題：東京都における調査から -A study of personal rating system of occupational therapists in Tokyo

【学会発表】

- ・「医療福祉職のコンピテンシー研究に関する文献レビュー」